

美術館としての万博

弁護士知財ネット会員
弁護士 雨宮 沙耶花

1 はじめに

大阪万博見てある記は、5月号・6月号と、いろいろな先端技術や日本の文化が紹介されているところですが、私の方では、大学生・高校生・中学生の娘3人を連れて行きましたので、女子向けの見てある記をお送りしたいと思います。

私は理系も好きなのですが、娘達は理系に全く興味がなく、パビリオン希望は、フランス館とイタリア館で、行ってみて一番よかったのもフランス館、とのことでした（三女は、くら寿司が一番だったとのことです・・・）。

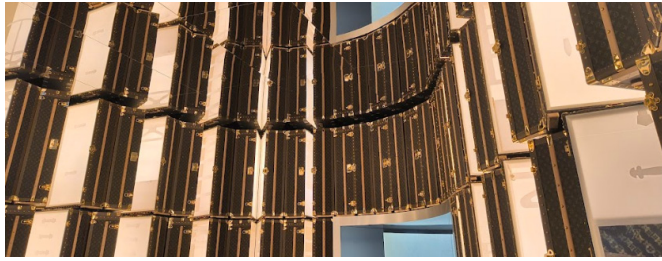
2 フランス館

フランス館は、予約できないパビリオンで、逆に言うと、予約しなくても入れるため、隣のアメリカ館とともに、開園後すぐに長蛇の列となります。

我が家は、開園時間の1時間前に東ゲートに到着し、開園して10分ぐらいで入園できましたので、フランス館も、10分待ちぐらいで入れました。

フランスパビリオンのテーマは「愛の賛歌」。「愛に導かれる新しい未来のビジョンを提案します」ということですが、我が家の娘たちは、フランスの象徴ともいえる著名ブランドがたくさん展示されているというところにテンションが上がったようです。

まず、大きなインパクトを受けるのは、ルイ・ヴィトンのモノグラム柄のワードローブトランクが壁一面、天井まで84個並ぶ空間。中央に置かれたトランクの上には、ロダンの彫刻「カテドラル」が展示されています。



(ルイ・ヴィトンの空間)



(ロダンの「カテドラル」)

ルイ・ヴィトンのモノグラム柄は、非常に有名ですが、LVのマークやモノグラム柄全体だけでなく、LV以外のパーツも1つ1つ商標登録されていることをご存知でしょうか。

ブランドを保護するため、知財をしっかり活用されている企業です。



(ルイ・ヴィトンの登録商標例、商標登録第1374708号、1446773号、4105813号、4105816号、6863551号等、J-PlatPatより)

次に目をひくのが、壁一面にディオールの白いトワール¹が飾られた空間です。

小さなサイズから徐々に大きくなって、イメージが具体化してドレスが出来上がるというデザインの過程が感じられます。

中央には、白いドレスや、LADY DIOR²をテーマにした建築家妹島和世の作品も展示されています。妹島和世氏は、著名な女性建築家で、西沢立衛との建築ユニットSANAAで建築界のノーベル賞と呼ばれるプリツカー賞など多数受賞しています。主な作品に、金沢21世紀美術館、ルーブル美術館別館、Dior表参道などがあり、ディオールとは縁があるようです。ディオールの創業者であるクリスチャン・ディオールももともと建築家を志していたとのこと、建築とデザインは密接な関係にあるような気がします。今回の関西万博も、素晴らしいデザインの建築が数多くあり、建物を見ているだけで楽しいです。

1 仮縫い生地

2 1995年に誕生したアイコンバッグ。故ダイアナ妃が愛用していたバッグとして知られている。



（大小さまざまなトワル）



（「LADY DIOR」）

3つ目のブランドは、セリーヌ。

石川県輪島市に拠点を置き、伝統的な漆塗りの作品や美術品を制作する彦十蒔絵が手掛ける漆塗りの「トリオンフ³」が、制作過程の動画とともに、黒・赤・金の3点展示されています。

漆が美しく、いつまでも眺めていたくなるほどで、日本の伝統技術の素晴らしさを再確認することができるコラボレーションです。娘たちも、漆塗りに興味を持ったようです。

ディオールとセリーヌの間の部屋には、世界遺産つながりで、モンサンミッシェルと厳島神社を注連縄で結んだオブジェがあり、日本とフランスの絆が表現されていました。



（漆塗りのトリオンフ）



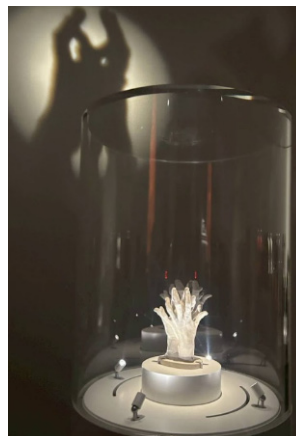
（モンサンミッシェルと厳島神社）

ブランドの話ばかりしてしまいましたが、ロダンの「手」の彫刻がたくさん展示されているのも印象的です。手は、職人技と創造の象徴で、人間同士をつなぐものという意味も込め、多数の「手」を展示しているそうです。

3 セリーヌのCを重ねたマークで、「凱旋」の意味



(ロダンの彫刻)



(ロダンの彫刻と影)

他にも、特産のワイン用の葡萄のオブジェのある部屋や、パリで踊っている映像の部屋や庭園などもあり、見どころ満載のパビリオンです。

●ミャクミャクレモネード



(三次元イラスト用機械)



(ミャクミャク作成中)

暑い日でしたので、休憩にサントリーパークカフェに行き、三次元でイラストを描いてくれるミャクミャクレモネードをいただきました。900円にしては量が少ないですが、目の前で機械で描いてくれる体験代と思えば相応です。表面のアートではなく、液体の中に描けるというのは面白い技術です。

パークカフェでは、天然水を使ったかき氷やホットドッグなども美味しかったです。

3 イタリア館

イタリア館は、日本初展示の「ファルネーゼのアトラス」を見ることができると大人気なパビリオンですが、私は、大人気になる前に予約して（イタリア館の予約転売が問題になっていますが、公式サイトでの予約です）、そんなに大人気になるとは思っていなかったのも、ラッキーでした。関西万博にあまり乗り気ではなかった娘たち、イタリア館が予約できているなら、まあ行ってもいいかなということで、イタリア館のおかげで万博に来てくれたという感じです（三女は、くら寿司予約のおかげ）。

予約はあったのですが、予約なしの人で長蛇の列になっているためか、予約していても、かなり並ぶことになりました。

入場後、まず、シアター形式の部屋で揃って動画を見てから、スタートなので、次々に入れるわけにはいかないのと、各展示物にも長い列ができてしまっているのも、入場を制限せざるを得ないようです。

シアターでの上映が終わってから、まず対面するのが「ファルネーゼのアトラス」です。古代ローマ時代に制作され、ナポリの美術館に所蔵されており、今後は持ちだすことはできないのではないと言われており、日本で見ることは最初で最後かもしれません。これを見るためだけの目的で万博に来てよいぐらいで、追加料金もなく見ることができるなんて、万博のチケット代は安いぐらいとも言われています。

レプリカではなく、実物を至近距離で360度見ることができ、大迫力です。ぜひ、現地で直接見てみてください。



（ファルネーゼのアトラス）



（キリストの埋葬）

次はバチカン市国の部屋で、バチカン市国といえば、新ローマ法王を決めるコンクラーベが話題になりましたが、ここには、カラヴァッジョの名作「キリストの埋葬」が展示されています。「キリストの埋葬」は、2020年に約30年ぶりに2度目の来日予定だったのが、新型コロナウイルスの影響で来日できず、今回が、1989年以来2度目の来日となりました。

暗い部屋での展示で、暗闇から人物を浮き上がらせる明暗対比の絵画に目を奪われます。

そして、天才レオナルド・ダ・ヴィンチの直筆のスケッチ。

これは小さいので、近づかなければ見ることができず、そのために長蛇の列となってしまうています。精巧なスケッチを見ていると、ダ・ヴィンチの頭の中を少しだけ覗いたような気分になります。



(ダ・ヴィンチのスケッチ)

その後も、いろいろな展示物や、屋上庭園などを見ることができるのですが、予想以上に並んでしまったため、くら寿司の予約時間が迫っていて、急ぎ足でイタリア館を後にしました。

●空き枠先着予約について

私はテーマパークの予約ガチ勢でして、予約開始と同時に予約できるよう時報を見ながらクリックするぐらいですし、キャンセル拾いも諦めずに頑張るタイプなのですが、そんな私でも、万博の3日前空き枠先着予約は厳しい戦いでした。

3日前の0時は、全く繋がらず、繋がったときには、空きなし。その後、空き枠自体は見かけるものの、2人では予約できても、5人では予約できず、前日まで2日間、ひたすら格闘しても、5人で予約できる空きを見つけることはできませんでした。

2日間、無駄な時間を費やしてしまったので、多人数での空き枠予約は最初からあきらめて、当日予約や当日並んで楽しむ方がよいと思います。

2人ぐらいなら、何度も確認していれば、希望の空き枠も出てきますので、諦めずにチャレンジしてみるとよいと思います。

4 くら寿司

パビリオンではないので、別枠記載にしようかなと思ったのですが、万博で大人気のお店ですし、万博ならではのメニューもありますので、こちらで記載することにします。

くら寿司は、アプリやLINE予約で事前に予約ができます（こちらも転売が問題になっていて今は予約しにくいようです）。当日行って予約もできますが、西ゲート近くで、東ゲートからは非常に遠いので、西ゲートから来る人ならよいですが、そうでなければ大変です。イタリア館から急いで行った我が家、イタリア館は大屋根リング内の中では西側にあるのですが、それでも遠く感じました。当日予約も、すぐに予約受付終了になってしまうようです。

人気の理由は、世界の料理をお手頃価格でいただけることです。万博のご飯は、それなりのお値段がしますが（関西グルメならお手頃なものも多いですが、関西在住者ですと万博で行く気はせず・・・）、くらでは、70もの世界料理を1皿320円でいただけます（レーンに流れているものは1皿300円）。

くら寿司史上最長レーンというのも目玉のようで、座ってしまうとレーンの長さは分からないものの、たくさん客席があるので、予約さえ取っていれば、あまり待たずに座ることができます（くら寿司の予約は席予約ではなく順番予約なので予約していても待つことはあります）。

メニューのうち、我が家が実際にいただいた料理の一部を紹介します。

料理系は、シンガポールのチリクラブ、タイのガイヤーン、マーシャル諸島のポキ、ソロモン諸島のキャッサバ芋フライ、オランダのハーリング(発酵ニシン)、スペインのハモンセラーノ、ハンガリーの鴨のローストトリュフソース、など。

デザート系は、マダガスカルバニラパンケーキ、中国の月餅、エチオピアのコーヒータルト、東ティモールのエッグタルト、アラブ首長国連邦のパパロティ（メロンパンにコーヒースソースがかかったような感じ）など。

料理70種類のうち、デザートが20種類以上あり、デザートだけで満腹になることもできそうです。



(外観)



(世界の料理)



(普通メニューと
世界のデザート)

知らない国の知らない料理を、どんな味だろうと注文してみることで、家族の会話も弾みます。

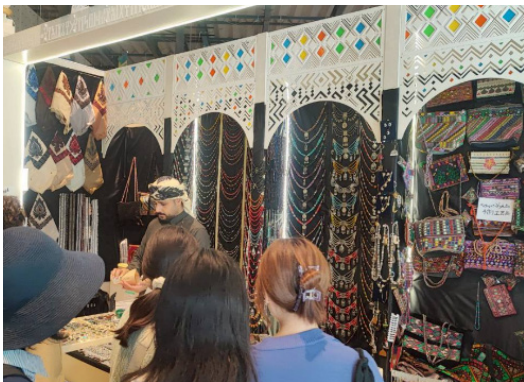
もちろん、普通のメニューもありますので、食べ慣れた味と交互に楽しむことができます。タッチパネルでの注文よりレーンから取る方が20円安いので、注文した後にレーンでその料理が回ってくると、しまった、となったりもしますが、それもまた楽しいです。レーンでは、世界の料理といつものメニューがペアになって回っています。

くら寿司から、東側に戻るには、EVバスのeMoverがおすすめです。1人400円ですが、始発から乗れますので、座れますし、徒歩では通れない大屋根リングの下の海側を通ることができます。夜の海は真っ暗でしたが、明るい時間なら海を眺めて楽しめそうです。

くら寿司のあと、リ・ボーン体験の予約が取れていたのですが、もう疲れたので帰りたいということで、泣く泣くキャンセルし、夜のショーも見なかったのですが、また次回の楽しみとし、帰宅しました。

●コモンズ館

モンズ館はたくさんの国が共同で参加しているパビリオンで、予約不要で、比較的空いています（午後の混んでいる時間帯は待ち列できますが）。コモンズAの出口付近では、カヌレやコーヒーの店と、アラブのスークのようなアクセサリ売り場がありました。販売しているのもアラブ系の方で、海外の市場にいるような気分になります。早い時間に行ったので、カヌレの店もガラガラだったのですが、カヌレは人気ですごく並ぶことを後から知り、買っておけばよかったと後悔しております。



(アクセサリ売り場)



(たくさんのブレスレット)

5 おわりに

記事にした以外にも、パビリオンやショーなど、いろいろ回りましたが、デジタルでの展示が多いように感じ、実際に本物を見ることができるフランス館やイタリア館が印象に残るのかもしれないと思いました。

もちろん、まだ見ていないパビリオンやショーが大多数で、数少ない中での感想ですので、全部行ってみるとまた変わるかもしれません。一度行くと何度も行きたくなりますね。

これから暑くなり、たくさん回るのは難しいかとも思うかもしれませんが、美術品を見るため

だけでも価値がありますので、それを目当てに行って、ついでに、他も見てみる、というぐらいの気持ちで行けば、少ししか回れなかったとしても、楽しめるのではないのでしょうか。

（脱稿日：令和7年6月10日）